



レギュラー製品「Crystal E」の販売は1万台を達成。「オーディオアクセサリ-銘機賞2021」では特別開発賞、「オーディオアクセサリ-銘機賞2022」ではロングセラー賞を受賞



サンドブラスト加工による凹凸処理により、有効面積が60%アップ。約1,600 cm²(30cm×53.3cm)にまで拡大された。内部異金属積層プレートの構成は従来通りで、①ステンレス SUS/②黄銅/③銅/④黄銅/⑤銅/⑥黄銅/⑦銅/⑧黄銅の8層となっている



写真左がサンドブラスト有り、右が無しの状態

内部積層プレートを加工し有効面積が大幅に拡大した

光城精工の仮想アース装置「クリスタルE」が大好評で、何と発売から1万台を超える大ヒットを継続中という。3万円台という比較的手頃な価格にして、私も何度か実験しているのが結構いい効き目を示してくれるのである。ユーザーが増えるのも当然というべきであろう。改めて「クリスタルE」の内部構造について簡単に触れておくと、基本的に同社の仮想アース装置は異種金属を可能な限りの大面積で接し合わせることで吸収できる電位を高めるという方式で、内部にはステンレス、黄銅、銅、黄銅、銅、黄銅、銅、黄銅と8層にも及ぶ金属板が積層され、しかも各層には0.5mmのすき間を空けることで効果をさらに高めているという。このあたり、実験精神旺盛な「ジョン」が隊長「こと」も

社長の仮想アース装置開発担当・土岐泰義氏らしいこだわりが結晶ということができそう。

そのジョンが隊長が、またしても開発を進められた。「クリスタルE」の効力をさらに増した世界800個限定「Jtune」仕様である。JtuneのJはジョンが隊長のJというから、まさに土岐氏のシグネチャー・モデルと考えてよからう。レギュラー・モデルとの一番の違いは積層された金属で、しかし素材や積層枚数などはまったく変わっていない。ならばどこが変わったのかといえ、金属素材の表面にサンドブラスト加工を施したことだ。オーディオ機器のフロントパネルなどによく施される「梨地加工」というのがこれで、表面がザラザラになる。面積が増えるアース効果が高まるということだ。実測したところでは、この加工で表面積は何と1.6倍にもなったという。

また、ケーブルを接続するアース端子も変更されており、ステンレス製のネジから金メッキのものとなった。それに、本体を組み付けるネジもニッケルメッキ・スチール製から中空のステンレス製に変わった。材質変更とともに、内部空間に息抜き穴を設けることで音質に開放感が加わったそう。

ノイズが下がるだけでない本質的な向上効果が加わる

取材は自宅で行った。レファレンスのプリに接続しているアース装置を外し、裸の状態にしてから改めてディスクプレーヤーへ接続して音を聴いた。クラシックはもう最初の一撃で音のきみが細くなり、しこりがほぐれたような伸びやかさ、音の通りの良さが味わえた。音場の自然な広がりも特筆すべきで、音量をどんどん上げて耳に障らなくなることもまた素晴らしい。ジャズはドラムのキック一発が明らかにスピード感を増し、立ち下がりも俊敏になった。ウッドベースもまたつきが一扫され、スケール雄大に弾み、ドラムと対話する。長時間聴いても聴き疲れしないことにも気づく。これはとても大切な向上であろう。

ポップスは少し不快な重量感を感じていた超低音が軽く抜けてしまったのに仰天、声も「ああ、これまで付帯音がついてたんだ」とはっきり分かってしまう。聴き心地の良さはまさに極上、単にアース電位を

整えるだけで、なぜここまで音質がクリアになってしまうのか。ノイズフロアが大幅に下がるといふことは大体想像がつくが、これはさらに本質的な向上を含むと考えざるを得ない。

従来モデルとは格が違うスケール感が劇的に向上

レギュラーの「クリスタルE」も同じ装置で試したことがあるのだが、限定版とはちよつと格の違いを感じざるを得ない。いろいろコストのかかる部材が投入されているJtuneだが、せめて金属板へのサンドブラストを標準としたレギュラーの上級版を登場させてもらえないものだろうか。そう嘆息するくらい、大きな差に感じられた。

今回はこのJtuneが2台送られてきた。これはもう「つないで使



アース端子は従来のステンレス製M4バインドネジから、金メッキM4の3点錫ネジに変更。より安定した導通性能を実現

従来はニッケルメッキ仕様のスチール製だったのに対し、ステンレス製の中空穴付きネジに変更。内部エア一抜きの効果でより開放的な音質を狙っている

えーを試せということだな、というところで、早速やってみる。クラシックは音場がもっと遙かに広がり、オケがリスニングルーム背後の壁より遙か後方に定位、バンダは左右スピーカーを遠く外れた側方に定位する。とにかくスケール感の向上がたまたものではない。音量は厳密にそろえてあるから、これは純粋に解像度が高まる、というか耳へ届く情報量が増えたという風にしか考えられない。ジャズはドラムスのパワーとスピードがさらに高まり、ウッドベイスは生々しくリスナーの耳を直撃する。ポップスも付帯音が激減したクリアで広大な音場に歌姫がポツカリ浮かび、実に聴き心地が良い。「クリスタルE」の試聴でも「2台つなぐと2倍どころではない向上になる」と書いて「それ、ホントですか!」とイベントで出会った読者から聞かれたものだが、今回もそれは掛け値なしの現実として観測することができた。800台の限定が実にもったいない製品である。



「Crystal E Jtune」も通常モデル同様に増設が可能

有効表面積をさらに拡大 ファウンダーの名を冠した 限定モデルが登場

総販売台数が1万台を達成しながら、いまま根強い人気を誇るKOJO TECHNOLOGY(光城精工)の仮想アース「Crystal E」。その後、プラグイン式の仮想アース「Crystal Ep」というもうひとつの人気モデルを輩出し、さらに今回、その第3幕ともいえる注目アイテムが登場した。開発者の土岐泰義氏のハンドルネームである「ジョンが隊長」を冠した「Crystal E」の限定モデルである。当初は世界300台限定発売だったものが、問い合わせの時点で予定台数を突破。急速限定数を800台に増産、変更することになったという。通常モデルとはどのような違いがあるのか?早速炭山アキラ氏がその効果を体験する。

Text by
炭山アキラ
Akira Sumiyama



「Crystal E Jtune」の詳細ページはこちら

KOJO TECHNOLOGY Crystal E Jtune

¥47,300(税込) 世界限定800台 / 3月16日発売

●仮想アース端子: M4×2端子(金メッキ3点錫ネジ) ●積層表面積: 1,600cm² ●サイズ: 80W×35H×111Dmm(端子や突起物含まず) ●質量: 約775g ●付属品: 専用アースケーブル×2本(RCA-Y (M4)仕様とY (M6) -Y (M4)仕様)



限定モデルの証となる「Jtune」マーク